

2019年3月期 第2四半期決算説明資料

2018年11月2日



エムケー精工株式会社

証券コード: 5906





2019年3月期 第2四半期の決算概要

2019年3月期 第2四半期の総括

■ 業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな回復基調で推移いたしました。また、海外経済につきましては、堅調な米国経済を背景に全体として景気回復が持続しましたが、貿易摩擦の激化への懸念が高まっているほか、原油価格の上昇や地政学的リスクなど、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループ関連業界におきましては、オート機器の分野では、活発な設備投資が続き堅調に推移しましたが、情報機器及び生活機器の分野では、市場の伸び悩みや激しい価格競争により厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと、本年創立70周年を迎えた当社グループは、新たな成長フェーズへ踏み出すべく、モノづくりの原点回帰と顧客視点に立った商品開発、サービス品質の向上に取り組んでまいりました。また、コア技術力のさらなる深耕と他分野への応用力の強化を進め、中長期的な企業価値向上の実現と持続的な成長を支える人材の育成に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は109億7千9百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益は5億6千1百万円(前年同期比22.0%減)、経常利益は5億8千3百万円(前年同期比18.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億8千9百万円(前年同期比10.1%増)となりました。



2019年3月期 第2四半期の業績

<連結業績>

単位:百万円

	2018年9月期	2017年9月期	対前期比
売上高	10,979	9,995	109.8%
営業利益	561	719	78.0%
経常利益	583	716	81.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	489	444	110.1%

2019年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位：千円

	2018年9月期	2017年9月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	14,345,252	12,170,060	2,175,192
現金及び預金	2,434,858	1,868,339	566,519
受取手形及び売掛金	5,473,510	4,863,365	610,144
たな卸資産	5,972,204	5,121,200	851,004
その他の流動資産	464,678	317,154	147,524
固定資産	12,039,388	10,039,433	1,999,955
有形固定資産	7,054,450	6,437,020	617,430
無形固定資産	2,144,003	1,034,380	1,109,622
投資その他の資産	2,840,934	2,568,032	272,902
繰延資産	—	—	—
資産合計	26,384,640	22,209,493	4,175,147

2019年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位：千円

	2018年9月期	2017年9月期	増減額
(負債の部)			
流動負債	10,914,877	8,471,653	2,443,233
支払手形及び買掛金	1,315,914	1,396,971	△81,056
短期借入金	3,652,780	2,300,000	1,352,780
1年内返済予定の長期借入金	1,198,943	470,157	728,786
未払金	3,362,843	3,082,444	280,399
その他の流動負債	1,384,395	1,222,080	162,314
固定負債	4,347,366	2,973,936	1,373,430
長期借入金	3,225,314	1,946,020	1,279,294
その他の固定負債	1,122,052	1,027,916	94,136
負債合計	15,262,244	11,445,589	3,816,654



2019年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位:千円

	2018年9月期	2017年9月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	10,563,469	10,156,734	406,735
資本金	3,373,552	3,373,552	—
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	—
利益剰余金	4,749,231	4,342,495	406,735
自己株式	△510,457	△510,457	—
その他の包括利益累計額	558,927	607,169	△48,242
その他有価証券評価差額金	402,349	396,947	5,401
繰延ヘッジ損益	5,559	4,993	566
為替換算調整勘定	23,346	44,287	△20,940
退職給付に係る調整累計額	127,671	160,940	△33,269
純資産合計	11,122,396	10,763,903	358,493
負債純資産合計	26,384,640	22,209,493	4,175,147



2019年3月期 第2四半期連結損益計算書

単位：千円

	2018年9月期	2017年9月期	増減額
売上高	10,979,473	9,995,583	983,890
売上原価	7,348,804	6,446,630	902,173
売上総利益	3,630,668	3,548,952	81,716
販売費及び一般管理費	3,069,429	2,829,700	239,729
営業利益	561,239	719,252	△158,013
営業外収益	64,892	47,588	17,303
営業外費用	42,514	49,931	△7,416
経常利益	583,616	716,910	△133,293
特別利益	186,518	55	186,462
特別損失	270	470	△199
税金等調整前四半期純利益	769,864	716,495	53,369
法人税等及び法人税等調整額	279,903	271,586	8,317
親会社株主に帰属する四半期純利益	489,960	444,908	45,051



2019年3月期 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

	2018年9月期	2017年9月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△610,795	△408,547	△202,247
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,421,917	△312,934	△2,108,982
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,472,596	642,687	2,829,909
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,782	△5,798	4,016
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	438,100	△84,594	522,695
現金及び現金同等物の期首残高	354,399	595,216	△240,816
現金及び現金同等物の四半期末残高	792,500	510,622	281,878

2019年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

＜2018年3月21日から2018年9月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2018年3月21日残高	3,373,552	2,951,143	4,375,279	△510,457	10,189,518
当第2四半期連結累計期間中 の変動額					
剰余金の配当			△116,009		△116,009
親会社株主に帰属する 四半期純利益			489,960		489,960
株主資本以外の項目の 当期間中の変動額(純額)					
当第2四半期連結累計期間中 の変動額合計	—	—	373,951	—	373,951
2018年9月20日残高	3,373,552	2,951,143	4,749,231	△510,457	10,563,469



2019年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

単位：千円

	その他の包括利益累計額					純資産 合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額 合計	
2018年3月21日残高	413,676	△13,229	52,788	127,502	580,737	10,770,256
当第2四半期連結累計期間中 の変動額						
剰余金の配当						△116,009
親会社株主に帰属する 四半期純利益						489,960
株主資本以外の項目の 当期間中の変動額(純額)	△11,327	18,789	△29,441	168	△21,810	△21,810
当第2四半期連結累計期間中 の変動額合計	△11,327	18,789	△29,441	168	△21,810	352,140
2018年9月20日残高	402,349	5,559	23,346	127,671	558,927	11,122,396

セグメント別分析

■ オート機器事業

主力の門型洗車機は、SS向け洗車機が政府補助金制度の対象から外れた影響を受け、伸び悩みましたが、カーディーラー向けは新機種効果から伸長しました。オイル機器では、記録的な猛暑によりエアコンプレッシャーが好調に推移し、また温水式スプレー洗車機も前年同期実績を上回りました。その結果、売上高は前年同期比1.0%減の68億9千万円となりました。

■ 情報機器事業

一般店舗向け小型表示機は前年同期の実績に比べて減収となりましたが、SS向け看板は積極的な営業活動の展開により伸長し、また道路工事用表示機も堅調に推移しました。その結果、売上高は前年同期比16.7%増の8億1千3百万円となりました。



ドライブスルー門型洗車機



一般店舗向け小型表示機とフルカラー表示機

セグメント別分析



■ 生活機器事業

農家向け商材主力製品の低温貯蔵庫や保冷米びつ、一般家庭向け商材の電子レンジ置き台は、消費動向の冷え込みの中、前年並みに推移しました。一方、新発売した小型保冷米びつや黒にんにくメーカー、またワイヤレステレビスピーカーなどの耳関連商品は好調に推移し、売上が伸長しました。その結果、売上高は前年同期比38.3%増の23億4百万円となりました。

■ 住設機器事業

主として子会社の株式会社ニューストが行う事業で、木・アルミ複合断熱建具、反射板式消音装置等を製造・販売しております。建設業界全体が活況を呈する中、民間物件も需要が大幅に伸び、当社におきましても好調に推移しました。その結果、売上高は前年同期比53.0%増の8億8千1百万円となりました。



小型精米機

農産物低温貯蔵庫



アルタスウッドスクリーンの施工例

セグメント別分析

■ その他の事業

保険代理業、不動産管理・賃貸業、及び長野リンデンプラザホテルの運営に係るホテル業が主体となります。ホテル業は、お客様のニーズを踏まえたサービス品質の向上に努めておりますが、価格競争による厳しい環境が続いております。その結果、売上高は前年同期比3.1%減の9千万円となりました。



長野リンデンプラザホテル

2019年3月期 業績・配当予想

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2019年3月期の業績予想

<連結業績>

単位：百万円

	2019年3月期(予想)	2018年3月期(実績)	対前期比
売上高	21,500	20,480	105.0%
営業利益	700	848	82.5%
経常利益	700	863	81.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	477	83.7%

2019年3月期の配当予想

当社グループは、株主各位への利益還元を重要な政策と位置づけ、今後の事業展開を念頭に財務体質の強化のための内部留保とのバランスを考慮した利益配分を基本方針としております。

2019年3月期における1株当たりの年間配当予想は以下のとおりです。

<1株当たり年間配当金>

	1株当たり期末配当金
2019年3月期(予想)	8円00銭
2018年3月期(実績)	8円00銭



参考資料

当社の経営方針

■ 今後の経営方針

当社グループは、企業理念「求・消・営」のもと、お客様(消費者)をすべての中心に据え、お客様に求められる商品とサービスを提供するための営業に努めてまいりました。また、開発から製造・販売までの一貫体制による「自社考案・自社販売」を基本方針として、研究開発型企業を志向しております。

なお、当社グループを取り巻く環境は時々刻々と変化しており、また、これに伴い顧客ニーズやビジネスモデルが益々多様化しております。こうした変化や多様化に敏感かつ柔軟に適応すべく、モノづくりとサービス提供との高度な融合にチャレンジし続けてまいります。

中長期的な経営戦略

■ 中長期的な経営戦略

今後の経済見通しは、国内景気は引き続き緩やかな回復が見込まれるものの、海外の経済環境は不透明さを増しつつあります。また、当社グループを取り巻く環境は、政府の補助金制度の縮小や一層の競合激化などにより、厳しい状況になることが見込まれます。

当社グループは、こうした状況に対する危機感を共有しつつ、強い攻めの心構えをもって新たな成長フェーズへ踏み出すべく、以下の課題に取り組んでまいります。

①ブランドの強化

当社は、当事業年度をもって創立70周年を迎えました。これを機に、対外向けのコーポレートブランディング、グループ内のインナーブランディング及び学生等に向けた採用ブランディングを通じて、更なるブランドの強化を図ります。

②組織連携の強化

部門をまたぐ横断的な組織体の強化により、生産性の向上と新事業の創造を目指します。すなわち、「IT基盤」「人事制度」「生産ライン改善」「海外展開」といった既存プロジェクトの深化を図るとともに、新たな組織体により新事業創造の基盤構築を図ります。

中長期的な経営戦略

③経営インフラの強化

企業体質を健全に保つには、人材、財務、IT、生産ラインといった経営インフラを整備し強化することが不可欠です。各事業において果たすべき責任と義務を遂行できる人づくり、変動する外部環境をふまえ各事業の最適化を図る財務基盤、そして持続的な成長に資するIT基盤と生産ラインの構築に一層の注力をしてまいります。

研究開発活動

市場ニーズが多様化する中、「良いモノをつくれれば売れる」といった単純な時代が終焉を迎えて久しいときが経っております。「お客様が本当に困っていることはなにか」、「困っていても現状に甘んじていることはなにか」、さらに言えば「お客様自身でさえ気がついていないような『こんなものがほしかった!』といったものはないのか」、研究開発においてもそういったマーケティング思考が極めて重要になっております。

当期は創業70周年にあたり、これを機に「その手があった!の一手先。」といった新コーポレートスローガンを掲げ、「お客様に寄り添うメーカー」から「お客様にとって、なくてはならないメーカー」を目指して、あらゆる研究開発活動を進めてまいります。

■ オート機器事業

門型洗車機では、3ウェイドライブスルー機の「アプリス」及び「フィーア」をベースとし、感謝と進化をテーマとした70周年記念モデルを開発しました。ドライブスルー機用の新オプションとして、洗車機からせり出した独立型のジェット&泡洗浄システム「ジェットフォーマー」を開発しました。装置前面には、多彩な発光パターンで注目度をアップする高輝度LED照明を搭載しショー効果を高めております。

また、ディーラー、整備工場、フルサービスSS向けのスタンダード機「アンブル」及び「サフィール」の上位モデルとして、新開発の高精細車形ユニットを搭載した「フォーゼ」及び「プレイズ」を開発しました。他社機を凌ぐ新開発の274軸センサーで上位機種相当の装備品自動認識が可能となり、高精度車形データをきめ細かくブラシ制御に反映することで、SUV車やワゴン車の洗浄性を大幅に向上しました。

スプレー洗車機では、手洗い用泡洗車機の「スーパームース」のモデルチェンジを行い、基本機能の使い勝手と耐久性を向上させるとともに性能を高めた新処方ケミカルを開発しました。

また、消防法に準拠したガソリンスタンド向けのスポットクーラーを開発し、リリースしております。

研究開発活動

■ 情報機器事業

民需向けでは、高精細LEDモジュールを採用した新型デジタルサイネージ「DSクオリエ」を開発しました。また、中規模LEDビジョン向けに、従来の使い易さを踏襲しつつ機能の向上を図った新制御システムを開発しています。

SS向け専用機としては、LEDガソリン価格看板の訴求力向上を図り、フルカラーLEDディスプレイを搭載した新モデルを開発しました。また、フルカラーLED定番機「FQシリーズ」にガソリン価格表示機能を搭載した機種を開発し、製品拡充を図っております。

公官需向け、工事関連、道路維持管理向けでは、高速道路SA向け特注システムの開発を行うとともに、大手顧客向け新製品の開発を進めています。

研究開発活動

■ 生活機器事業

農家向け商材では、果樹野菜農家向けの大型低温貯蔵庫と高級感あるパールホワイト色を採用した70周年記念モデルを開発しました。さらに、これまで市場には無かった黒にんにくメーカーを開発しました。黒にんにくは高価な食品であり、この製品を使うと黒にんにくが家庭で作れることから問い合わせも多く寄せられています。

家電商材では、去年の小型精米機に続き、これまで市場にはなかった小型保冷米びつを開発しました。キッチンに合うスリムなデザインで米の収納量は5kgと10kgの2種類で、カラーも2色展開として家電量販店、テレビ通販への納入実績ができました。

収納商材では、オープンラックについて、最近の食器棚などと奥行きを合わせる改良を盛り込んだモデルチェンジと収納量アップやスリムの機種追加を行い、シリーズの充実を図りました。また、前期大手ホームファニッシング向けにダストボックスを組み合わせたパールワゴンを納入した結果、販売が好調なため、ダストボックスを増やしたタイプを開発しました。さらに、レンジ台関連では、最近の運送業者の人手不足や再配達増加の事情から、大きな荷物の取り扱いを敬遠する事例が増加し、荷物の3辺合計寸法を抑えた梱包が必須となり、組立タイプのレンジ台を開発しました。

研究開発活動

■ 住設機器事業

消音装置シリーズでは、既存のNBルーバーでは落ちない騒音を音波干渉により減衰させるパネルの開発に着手しました。昨期開発した木製消音ルーバーと合わせて消音装置全体のバリエーションを充実させております。

また、木アルミ複合建具シリーズに構造用の木材を使用し、従来と違ったスリムなデザイン性を持たせたスクリーンと、断熱性や生産性を大幅に向上させた高断熱スクリーンの開発に着手しました。来期からの販売に合わせて試験などの準備を進め、木アルミ複合建具の採用拡大に努めてまいります。

新製品情報

■ オート機器

【創立70周年記念モデル ドライブスルー洗車機 アプリス [XS-903]】

業界初の立体的な車形認識ができる「3D車形センサー」を採用。装備品の装着位置をピンポイントで把握しブラシを安全に回避します。また、洗車品質の決め手となる「洗浄性能」は、すべての部位を適正圧でブラッシングする最適圧洗浄、サイドブラシを前後左右に傾けて洗う傾斜洗浄など最新技術を凝縮し、美しさと安全性の新たな高みを目指した70周年記念の特別モデルです。



新製品情報

■ オート機器

【泡手洗い専用機 スーパームース [SF-2200B]】

スタッフ向けの泡手洗い専用機です。高圧水、泡噴射、撥水コート of 1台3役をこなすプロ仕様で、高品質な手洗い洗車を提供できます。高圧水・撥水コート用と、泡洗剤用に管路を分けた独立式のガンを搭載。ケミカルの混合を防ぎ、それぞれの工程に合わせた最適な噴射を実現します。



新製品情報

■ 情報機器

【ストアサインDSクオリエP4】

現行の高精細LED表示機をさらに高精細化した「ストアサインDSクオリエP4」を発売しました。

本製品の特長は、LEDピッチ4mmのモジュールを採用し、画面画素数をW128×H192ピクセルにすることにより、従来の表示機と比べてより鮮明な表示が可能になります。高輝度フルカラーLEDにより屋外でも鮮明な表示ができることから、液晶サイネージに対抗できる商品です。



新製品情報

■ 生活機器

【小型保冷米びつ「ライスクール」】

昨今の異常気象により気温35℃を超える猛暑日が増え、お米を保存するには過酷な環境となっています。

当社は、大切なお米を通年おいしく食べていただきたいとの思いから、猛暑日でも庫内をお米の保存に最適な温度15℃と湿度60～70%に保ち酸化や害虫・カビの発生を抑え、キッチンのちょっとしたスペースに置ける小型保冷米びつ4機種を発売しました。お米の残量をお知らせする残量検知機能やコンプレッサーを使わない省エネ&エコ機能など、使いやすい製品となっています。



R=クラシックレッド



HRC-05SR
HRC-05SW



W=ライスホワイト

HRC-10SR
HRC-10SW

株主優待制度のご案内

■ 株主優待制度の内容

当社のグループ会社で運営する長野リンデンプラザホテル(長野市南千歳町)の宿泊優待券を贈呈いたします。

■ 発行基準

宿泊優待券は、毎年3月20日現在、所有株式数1,000株以上の株主様に対し、次のとおり発行いたします。

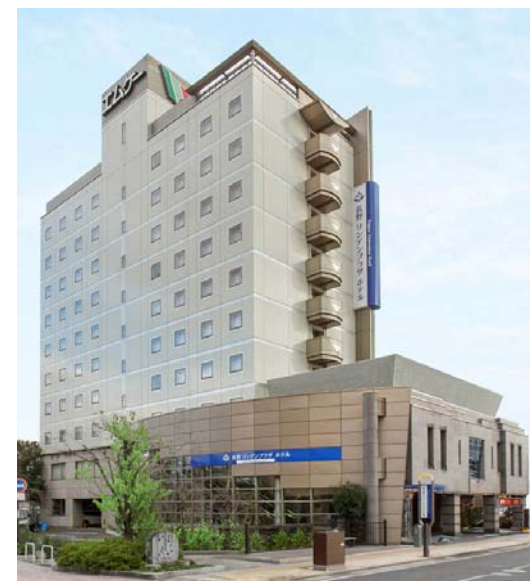
ご所有株数	ご優待券
1,000株 ~ 1,999株	2 枚
2,000株 ~ 3,999株	3 枚
4,000株 ~ 9,999株	4 枚
10,000株以上	6 枚

■ 発行日

定時株主総会后、決議通知に同封いたします。

■ 有効期限

発行年の翌年6月30日



長野リンデンプラザホテル



本資料に関するお問い合わせ

工ムケー精工株式会社

管理本部

TEL : 026-272-0601

E-mail : soumu@mkseiko.co.jp